



白 門 板 橋

2006. 3. 10 VOL. 25

編集
発行

中央大学学員会 東京板橋区支部

〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



■新春のあいさつ 支部の事業運営順調に推移

支部長 小日向 孝介

新年おめでとうございます。

会員の皆様には、清新な気持ちで新しい年をお迎えのごこと、お慶び申し上げます。

長いこと低迷を続けていた日本経済も、漸く踊り場を脱して、緩やかな回復に向かっていると言われております。このような折に、学員の御手洗富士夫氏が経団連会長に内定との朗報に接しました。財界のトップリーダーとして、日本経済の持続的成長と発展に貢献されることを期待したいと思います。

また大学本部でも、セブン&アイHD会長・鈴木敏文氏が新たに理事長に就任致しました。大学の存在感が大きく問われる少子化の時代、財界の大立者を学園の頂点にお迎えできたことは、母校・中央大学にとって極めて心強いことでもあります。

当板橋区支部におきましても、引き続き学員会本部と緊密な連携を取りながら、支部活動の充実強化を図っていききたいと考えております。

支部の事業運営につきましては、皆様の日頃のご協力により、順調に推移しております。今後も大学本部との連絡、支部内の状況、地域との関係などにつきまして、極力『白門板橋』を通じて、会員の皆様に情報を提供して参りたいと思っております。

今期も余すところ少なくなりましたが、役員一同全力を挙げて業務遂行に努力する所存でありますので、何とぞ温かいご支援をお願い申し上げます。

会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念して、挨拶と致します。

（「新春の集い」支部長メッセージより）

支部ニュース

首都の大雪にめげず

新年会に五十九名が集う

一月二日(土)午後六時から、区立文化会館大会議室を会場に、支部の新年会が開催された。この日は朝からの降雪のためか、数名の欠席者を出したものの、新入会員一名を含む総勢五十九名の会員が出席した。

大野事務局長の司会で開会し



▲記念撮影 (今年も元気に…)

小日向支部長の挨拶の後、全員の写真撮影を経て、関常任幹事の発声で乾杯。

歓談の途中、新年会の掛け持で駆けつけた石塚顧問(区長)から挨拶をいただき、引き続き新入会員の自己紹介を全員の大変な拍手で歓迎した。

歓談が続く中、カラオケ同好会の主導で演歌が次々歌われ、場内が盛り上がったものの、降雪を配慮して定刻より早めた校歌・応援歌・惜別の歌を若干会員のリードで全員輪になり元気に合唱。最後の締めを、栗山相談役の三本締めでお開きとなった。

仕出し料理に舌鼓を打つ

支部の公式行事になって三回目の忘年会が、昨年二月九日(金)板橋二丁目の割烹「かすが」を会場に四十七名が参加して賑やかに開催された。

持ち込まれた各地の地酒と、仕出し屋さんに対応しい豪華な料理に舌鼓を打った。

総会・新年会に次ぐ集いだけに、同窓の絆が一段と深まった忘年会になった。(池田記)

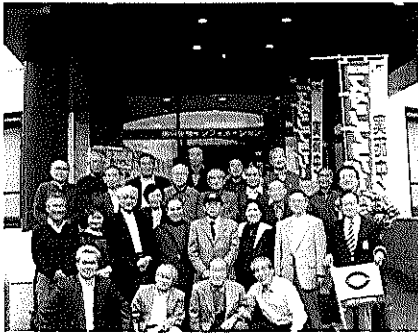
■秋の旅行

被災地・越後を見舞う

*

支部恒例の秋の旅行は、昨年一月二十九〜三十日にかけて、一年前の新潟大震災で壊滅的な被害を受けた越後の名湯・大湯温泉を見舞った。

旅行の間、一日間とも牛楯の雨にたたられたが、現地の市議会議員の震災体験談や農事組合での野菜等の貯蔵施設を見学するなど、社会勉強の他に、奥只見湖「八海山」蔵元での地ビールの試飲まで硬軟おり混ぜたバラエティーに富んだ旅を堪能して帰着した。(旅行記は5頁に掲載・金子記)



▲奥只見郷インフォメーションセンターにて

「ホームカミングデー」に有志二十五名が参加

*



▲中大多摩キャンパス

母校恒例の行事「ホームカミングデー」は、一〇月三日(日)絶好の行楽日和に恵まれた多摩キャンパスで開催された。

支部事業計画に掲げたホームカミングデーへの参加だけに、当支部はマイクロバスを任立てて有志二五名が参加した。

クレセントホールでの開会式の後、メインステージでの応援部演技、スイング部やグリークラブの演奏などの他に、留学生との交流会にも参加するなど母校での一日をたっぷり堪能した。復路のバスでは、物産店等で仕入れた白門ワインや地酒で盛り上がり、無事帰着した。

母校のニュース

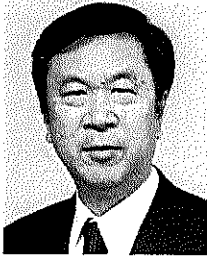
理事長に鈴木敏文氏就任



▲鈴木理事長

母校・中央大学の新任理事長にセブン&アイHD会長兼CEOの鈴木敏文氏(31経)が就任した。法学部以外の理事長は、二十年ぶりのこと。

永井学長を総長に選任



▲永井総長

また総長には、昨年十月に行われた学長選挙で選任された永井和之学長(43法)が、十一月

五日に開かれた理事会で総長に選任された。学長が総長に選任されたのは、平成二年一月に就任した高木友之助元文学部教授以来、一五年ぶりのこと。

法科大学院入学合格者に

他大学が上位を上回る

開校以来、本学出身者が一位を占めていたが、一八年度入学合格者が次ぎのとうり判明した。

- 一位 早大(二三〇名)
- 二位 慶大(二一〇名)
- 三位 中大(二〇五名)
- 四位 東大(七一名)
- 全合格者(五五七名)

この結果から、大学院創設の意義が問われようとしている。

日本経団連会長に
御手洗富士夫氏が内定

キャノン株式会社の社長・御手洗富士夫氏(36法)が、日本経団連の次期会長に内定した。

私大初の財界総理として、大いに注目される。五月に就任。

ボート部エイトで連覇

昨年十月に開催された全日本学生選手権で、本学ボート部がエイトで二連覇をなし遂げた。

舵手付きフォアでも優勝して、学生日本一の榮譽に輝いた。

箱根駅伝は八位にとどまる

出雲・全日本駅伝を二位と善戦した中大だったが、期待された箱根は田幸監督が自信をもって起用した復路の八・九・十区の選手が失速し、往路で一時はトップを走ったのも空しく、総合八位と惨敗に終わった。(栗原記)



▲力走する中大選手

熱い声援送る

白門出身力士に



▲チャンコ「照国」での会食風景

大相撲一月場所七日目の一月二四日(土)、支部の有志二〇名と白門四一会一〇名が合同で、白門出身力士の応援に国技館へ繰り込んだ。

この日は、十両の玉春日関だけが気を吐き、モンゴル勢の元気なのを複雑な気持ちで観戦。打出し後のチャンコ料理は、両支部とも和気あいあいに話が弾んだ。(平山記)

告知版

パソコン同好会便り

＊ 支部パソコン同好会は、長らく活動を休止していたが、昨年夏から再開した。

＊ 会長に佐藤道郎氏、事務局長には早坂光平氏が選任され、岡氏の熱心な呼びかけに会員も増え、すでに七回の講習が開催され、毎回二〇名を超す盛況をみている。

＊ 初心者も多いが、強力な講師陣の熱心な指導で日々技量が向上しており、講習終了後の飲み会も毎回欠かさず親睦を深めている。

＊ 今後の活動目標に、支部広報活動の一翼を担う「白門板橋ホームページ」の立ち上げが正式に決まり、今後の活動が大いに期待されている。

謹んで
お悔やみ申し上げます。
(敬称略)

訃報

(敬称略)

☆☆☆☆
☆☆☆☆
どうぞよろしく
お願い申し上げます。

新入会員のご紹介

(敬称略・入会順記載)

（二月 二百付人会）
▽篠崎 貢 38 法卒
板橋区本町
三九ノ二ノ四〇五

・不動産業
・趣味／将棋、カラオケ
（二月 四百付人会）
▽星 礼一 35 経済卒
さいたま市浦和区神明
一ノ八ノ四

・ソールスト板橋
・趣味／スキー、ゴルフ
和光市古子三丁目
一八ノ二ノ五〇五

支部観桜会の日程

日時 四月一日(土)

一 二時三〇分集合

会場 区立板橋大山公園&

レストランサンイチ

会費 四、〇〇〇円

担当 大山フロック

申込み 別紙で三月三〇日迄

支部定時総会の日程

日時 六月三日(金)

午後六時から

会場 区立文化会館大議室

(金子記)

□□□□□

年会費納入のお願い

総会に出席できない会員には、「郵便払込取扱票」を同封いたしましたので、よろしくお願いいたします。

支部の運営は、会員の皆様

の拠出された「会費」で賄わ

れていきます。

年会費 三、〇〇〇円

(会計幹事)

同窓会の仲間をご紹介下さい。

支部では、会員増強運動を展開しています。あなたの知る同窓の仲間を「支部の会員」にお誘い下さい。(事務局)

■秋の旅行記 被災地を見舞う越後の旅

*

一〇月二九日(土)、この日は雨もよいの空模様だった。板橋グリーンホール前に集合した面々は、それぞれが傘を手にしていた。総勢二八名を乗せた貸し切りバスが目指すのは、昨年お流れになってしまった越後の名湯・大湯温泉。

関越自動車道の小出ICを降りてすぐの奥只見郷インフォメーションセンターで昼食と買い物を買ませ、隣接する魚沼市観光協会へ向かう頃には、ポツポツと雨が降り始めていた。

魚沼市議会議員の大平悦子さんから、一年前の中越大地震の生々しい体験談や復興に向けての活動、特にボランティアとの協力態勢などについて、説得力のある講演を伺う。

**

近くの小出郷文化会館にバスが着く前後には、雨は本降りになつていった。小ホールで、「日本の邦楽と韓国、中国の音楽」

似ていて違う面白さ」と銘打たれたシンポジウムに参加。演奏と楽器紹介につづいての実習では、尺八や二胡にも挑戦してみた。

つづいてのお勉強は、農事組合法人グリーンファームで。日本では最初に雪印貯蔵庫を開発し、大量の野菜や漬物、さらには日本酒や味噌を保存する施設をじっくり見学して、いざ大湯温泉はホテル・湯元へ。

湯量豊富、泉質最高。かけ流しの大浴場で、雨に濡られ冷え切った身体を芯から温めて宴会場へ。具沢山のけんちん汁と魚沼産のこ

しひかりで食べる方は諦め、校歌・応援歌・惜別の歌の三点セットをすませて二次会へ。一次会で歌い足りなかったノド自慢の競演が延々と繰り広げられた。

前夜の宴会場で朝食を摂り、小雨に煙るホテル前から奥只見へ。昭和三六年に竣工したダム工事用に建設された全長二キロのシルバラインは、うち一八キロがトンネル。往時の苦労が偲ばれる。

一週間後には運航を中止する遊覧船から、目に鮮やかな湖岸の紅葉を愛でるのは、格別の贅沢だった。

もう一つの目玉が「八海山泉ビール苑」。工場直送のアルト、ピルスナー、ヴァイツェンの三種の地ビールを飲み比べ、当然、「八海山」の吟醸酒と純米吟醸酒もたっぷり賞味した。昼食に出た料理も上々であつて、土産もしっかり買い込んで帰途に着く。

カラオケとビンゴゲームで車内は盛り上がり、定刻より早めに板橋区役所前に到着。旅を共にした運転手さんとガイドさんに別れを惜しみながら解散した。(金子記)



▲奥只見湖を背に記念撮影する一行

■■■■■ 古澤道夫氏が

長塚節文学賞を受賞

☆☆☆

当支部の古澤道夫氏(30年法卒)が、第九回・



長塚節文学賞の俳句部門で見事大賞を受賞した。受賞作は、次の通り。

筑波嶺を
洗ひきつたる
夕立かな

*

平成十一年から俳句の道に入り、まだ日は浅いが一万三千句の中から選ばれ、茨城県知事賞、同教育長賞、下館市長賞なども授与された。

お見事！でした。

・俳号・みちを(三宅記)

隆慶一郎 文学拾い読み

『影武者・徳川家康』

出版社 株式会社新潮社
隆慶一郎のプロフィール略

隆文学は三度目の拾い読みになる。「捨て童子・松平忠輝」「死ぬことと見つけたり」に「影武者・徳川家康」が長編二部作である。「花と火の帝」を日経新聞に連載中に亡くなり、未完に終わった。

昨年の秋から今年の正月にかけて、隆文学の長編三作品を読んで、遂に全作品を読破した。作品の数は限られるが、いずれも時代小説を手がけ、登場人物が権力に媚びることなく、自由奔放に己の信念で生きるのが痛快である。静岡新聞に、予定を超えて一年半にわたり連載された傑作である。

「影武者・徳川家康」(上巻)

の中に、筆致を探ってみると

〜中略〜とにかく事は起った。

甲斐の六郎は己の馬を家康の馬に乗りかけ、反射的に手綱を引きしぼろうとして大きく上げた家康の左脇下を刺した。刀仕立ての長大な槍の穂は、正確に家康の心臓を貫いた……。

甲斐の六郎を斬ったのは、世良田二郎三郎である。

〜以下略〜

家康が甲斐の六郎(平武田の忍者)に暗殺されたシーンで、世良田二郎三郎は、言うまでもなく家康の影武者である。

この小説は、家康が関ヶ原の戦

で暗殺されたという仮説のもとに組み立てられていて、実にモチーフがユニークである。

余儀なく影武者として生きた男と、権力に憑かれた二代将軍秀忠の裏柳生と影武者・家康を支える風魔衆との凄絶な暗闘が繰り広げられるが、影武者・家康は権力の座にありながらも、常に徳川家の繁栄を願いながらその生涯を終えるという心根の優しい人物に仕立てている。

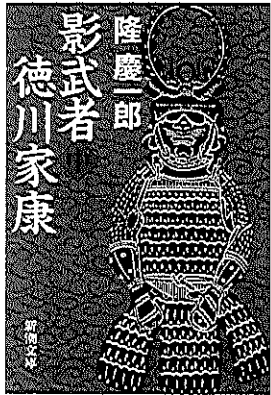
作家・隆慶一郎は、デビューしてから僅か五年で急逝した。

肝臓ガンによる死だが、やむなく入院が決まったときも、自分で衣類を整え、筆記具に缶ビールを持参して入院。治療に専念するどころか、主治医の目を盗んではベッドの上や食堂で連載小説の筆を走らせたという。

小説を書くことは「生きることだ」とする信念だったのだ。

隆慶一郎の作品は、どれを読んでも面白い。そして、今なお余韻が消えないのは、人間としての彼の生き方に共感を覚えるからでもある。

(平山記)



玉春日関が再入幕

出島関も勝ち越す

〇〇〇

▽豪風(尾車)

本名・成田 旭 平14卒

東前頭3枚目 四勝十一敗

▽出島(武蔵川)

本名・出島武春 平8卒

西前頭6枚目 八勝七敗



▽玉春日(片男波)

本名・松本良一 平6卒

東十両6枚目 十勝三敗

▽中尾(松ヶ根)

本名・中尾浩規 平7卒

幕下東18枚目 一勝五敗

▽魁道(友綱)

本名・田中康弘 平10卒

幕下東31枚目 四勝三敗

(池田記)

■氷川町という地名

皆さんご推察のとうり、地域
の氏神様・氷川神社の鎮守の地
であることから、昭和四〇年一
月一日、「氷川町」と名づけら
れた。それまでは、板橋八丁目

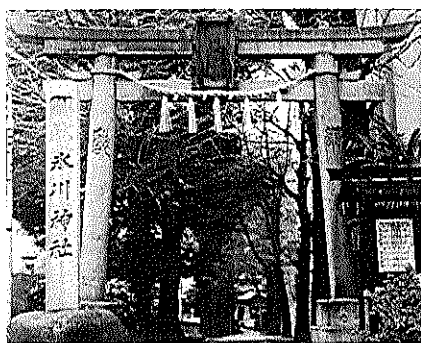
地名の由来…⑰

「氷川町」の巻

と呼ばれていた。
氷川神社の欄干様の説明によ
ると、元久三年（一二〇六年）
頃、このあたりの領主・豊島左
衛門尉経泰が埼玉真大宮市の氷
川神社（武蔵）一の宮とも言われ

る）からご祭神のご分霊を奉じて
お社を造り、お祀りして来たとの
ことです。

いろいろお話を伺おうとしまし
たら、明治二年の火災と昭和二
〇年の空襲で多くの資料を焼失し
たため、あまり役に立てないとの
ことでした。現在の鉄筋コンクリ
ート造の社殿が完成したのは、昭



和三年九月のことだそうです。

■本社は大宮市の氷川神社

氷川神社は現在、埼玉県と東京
都を中心にして、二荒川と多摩川
の間に約二三〇社あり、これらの
神社は大宮市（現さいたま市）高
鼻町にある氷川神社を本社として
氷川神を祀っている。

ご祭神は、須佐之男命・大己貴
命（おこなむちのみこと）奇稻田
姫命（くしいなだひめのみこと）
の三神で、大宮の氷川神社の縁起
によれば、第五代・孝昭天皇の三
年に創建されたという。また出雲
国杵築（きづき）大社を勅願によ
り勧請し、氷川神の神号を賜った
とされています。

出雲の人々は、一〇月のことを
「神無月」とは呼ばず、「神有月
」と呼ぶという。日本にはたくさ
んの神様がいますが、出雲大社の
大國主命は、天照大神より古い由
来の神様と考えられています。

そこで独断と偏見ですが…、
昔、出雲地方に、一大勢力があっ
た。これは邪馬台国や大和朝廷よ
りも前のことであった。当時は太
平洋側よりも日本海側が開けてい
た。大國主命の信仰が、まず北陸
地方に広まり、それから関東地方
に伝わって来た。その後、大和朝
廷の力が強大になるにつれ、朝廷
の信仰する天照大神を頂点とする
神話ができて来た。またそれまで
の信仰の対象である神々を天照大
神の下に位置するものとして、取
り込んでいった。

「氷川様も初めは、周辺の人
々の水の神、地主神であったの
が、国の信仰に組み込まれてい
った。」と聞いたことがあるの
で、こういう考えは成り立ちま
せんでしょうか？。私の創った
お話です。（由三川孝幸記）



編集後記

●内外ともに明るい話題の
少ない昨今、当支部会員の
古澤道夫氏が「長塚節文学
賞の俳句部門」で見事大賞
を受賞した。まさに朗報で
あり快挙である。●当支部
にも定年後の年金生活者は
多く、余暇を持てあまして
いると聞く。第一のステー
ジこそ、人生の生き甲斐を
見つけたものだ。●今年
も、桜の開花が近づいて来
た。去年桜を愛でた会員が
三名も物故された。年々歳
歳花相似たり、歳々年々人
同じからず。この時季は想
いが深い。（平山記）